



# Monthly Pediatrics News Letter

第77号

令和5年9月

発行：産業医科大学小児科学教室

作成者：保科隆之（小児科通信係）

## <はじめに>

産業医科大学小児科医局員、小児科入局を表明している初期研修医・学生の皆さん、日ごろの業務および勉強ご苦労様です。

ここでは毎回、季節の移り変わりについてお話ししますが（時候の挨拶）、9月になったにもかかわらず、今年も異常に暑い日が続いています。本当に夏という季節が嫌になってしまいます。暑さだけでなく、様々な感染症も夏なのに流行し嫌になっている先生もいるのではないのでしょうか。私も夏にインフルエンザの患者さんを複数診療することをまったく想像していませんでした。感染症流行の変化については、新型コロナウイルス発生の影響でしょうが、春と秋を中心に季節感がなくなってしまうことはとても残念なことです。

毎月配信しております小児科通信をお送りします。今回も大学で行われたイベントや学会参加予定などをお知らせします。小児科入局を表明していただいた学生の皆さんと当教室に興味を持っていただき見学に来られた学生さんと先生にもお送りしております。提供する情報に興味を持っていただけると嬉しいです。

通信を読んだ感想やご意見・ご要望を小児科通信制作責任者 ([hoshina@med.uoeh-u.ac.jp](mailto:hoshina@med.uoeh-u.ac.jp)) までお寄せください。今後の参考にさせていただきます。

## <8月の医局行事>

8月2日 Asmaa Abushawish 先生 学位審査

小児科の大学院生として研究に従事された Asmaa Abushawish 先生（パレスチナ出身）の学位審査が行われました。Frontiers in Pediatrics 誌に掲載された研究（Environmental factors related to differences in the microbiota in the upper respiratory tract in young children: Focusing on the impact of early nursery attendance）を発表されました。審査員の質問に的確に回答されていました。医学博士になるまで、もうひと頑張りです。

8月は夏休みのため、医局主催のカンファレンスはお休みでした。

## <9月の医局行事予定>

9月2、3日 日本小児科学会小児科専門医試験

卒後6年目の先生を対象とした専門医試験が京都で行われます。当教室からは4名が受験します。全員が合格することを祈っています。

9月10日 第522回日本小児科学会福岡地方会

(九大病院ウエストウィング棟4階臨床大講堂 + Web開催)

今回の地方会では、池上先生と平川先生が発表します。

9月11日 19時～ 第16回八幡地区病院小児科合同カンファレンス

場所 産業医科大学大学2号館2階2208教室

年2回(9月、3月)に八幡地区の小児科診療を行っている病院間で合同カンファレンスを行っています。今回は、「遺伝子解析によって診断が確定した症例を経験して、遺伝子検査実施のタイミングを考える外科との連携が有用であった事例」というテーマで以下の3演題を発表していただきます。多くの先生の参加をお待ちしています。

1. 遺伝子診断によってタイピングが確定し治療が整理されたQT延長症候群

JCHO九州病院小児科 藤川 諒太 先生

2. 重症貧血をきっかけとして診断に至ったオスラー病の一家族

北九州市立八幡病院小児科 松石 登志哉 先生、福井 香織 先生

3. 単球数増加と歯肉腫脹が自己免疫性好中球減少症との鑑別に有用であった

*SRP54* 遺伝子変異を有する先天性好中球減少症の1例

産業医科大学小児科 多久 佳祐 先生

9月28日 18時～ 産業医科大学小児科セミナー

場所 産業医科大学病院3階カンファレンスルーム

2022年7月から2023年8月までに採択された原著論文の報告会です。

論文内容を発表していただき保科(教授不在のため代行)の最も印象に残った発表をした先生と、論文が最も **impact factor** が高かった雑誌に掲載された筆頭著者の先生には、賞を差し上げることにしています(今年は全部で5篇が対象です)。

今年は誰がその荣誉に輝くのでしょうか?

11日と28日のカンファレンスは会場とZoomを使ったWeb配信のハイブリッド開催です。遠方からも聴講できますので、興味のある方は医局まで連絡してください。視聴方法をお知らせします。

<9・10月開催予定の学会・研究会>

9月および10月上旬に医局員が参加する予定の学会・研究会をお知らせします。新型コロナウイルス流行の影響で、多くの学会・研究会がWeb開催または現地とWebのハイブリッド開催でしたが、現地開催のみとなった学会も増えてきました。

9月9日 第522回 日本小児科学会福岡地方会

(福岡・九州大学病院ウエストウイング棟臨床大講堂 + Web)

発表予定者：池上、平川

9月29日-10月1日 第65回日本小児血液がん学会 (札幌・ロイトン札幌 + Web)

参加者：本田、中島、守田 (発表予定)、白山、宮本 (発表予定)  
大内田 (発表予定)

10月13-15日 第85回日本血液学会 (東京・東京国際フォーラム + Web)

参加者：白山 (発表予定)

上記に興味があり、参加を希望される方および詳細を知りたい方は、小児科医局に電話 (093-691-7254) をいただくか、メール ([hoshina@med.uoeh-u.ac.jp](mailto:hoshina@med.uoeh-u.ac.jp)) をお送りください。

#### <論文掲載情報>

当科医局員が筆頭著者もしくは共著者として名前の入っている論文の掲載情報です (7・8月掲載分)。小児科専門医取得のためには、自身が筆頭著者である論文が必要になります。当教室では、修練医にも積極的に論文作成に携わってもらい、専門医試験の受験資格をクリアできるよう指導しています。また、できるだけ英文雑誌への投稿を勧めます (PubMed に自分の名前が出てくると嬉しいです)。このことは、市中の総合病院ではなかなかできない利点だと思います。論文を作成することで、より理論的な考え方ができるようになります。診療の視点を広げるためにも、論文作成に積極的に取り組みましょう。

1. Mitani-Konno M, Saito R, Narumi-Wakayama H, Sakai Y, Suzuki S, Satoh H, Hasegawa Y. Clitoral preputial edema can be mistaken for clitoromegaly: a clinical analysis of ten cases. *Front Endocrinol* 2023; 14: 1175611.

2. Mizuki K, Ishimaru T, Imahashi M, Ikushima Y, Takahashi H, Masuda M, Yokomaku Y. Workplace factors associated with willingness to undergo HIV testing during workplace health checkups. *Environ Health Prev Med* 2023, in press.

3. 齊宮真理 (分担) . 高カリウム血症・低カリウム血症. 小児救急標準テキスト basic 編 (監修：日本小児救急医学会、中外医学社出版)

#### <おわりに>

小児科通信第77号はいかがでしたか。掲載した情報が皆さんの役に立てば嬉しいです。

9月は小児科専門医試験が行われる月です。医師として働くために専門医資格の取得は必須ではありませんが、自分自身が選んだ専門領域の専門医はとりあえず取得したいですね。小児科専門医試験の受験資格はいろいろありますが、その中で最も難関なのは筆頭著者の論文が必要なことです。当教室のプチ自慢としては、今年の受験者を含めて、現行の制度となってからもすべての先生が医師5年目までに筆頭著者の論文が出来上がり、最短で専門医試験が受験できていることです。後期研修の目的は専門医を取得することだけではありませんが、最短で専門医試験が受験できることは当教室の強みの一つです。もちろん、これから受験資格を得る皆さんにも続けていくつもりですので安心してください。まずは、今年受験する皆さんが無事合格することを願っています。

これまでの通信にも記載しましたが、最終的にはこの通信を読んでいる学生と初期研修医の皆さんが大学の医局に所属し、一緒に働けることが上級医の望みです。また、すでに小児科医として働いている皆さんが、日常診療や学会参加を通じてより一層レベルアップされることを願っています。

少し先になりますが、今年度は当教室の忘年会と同門会を開催する予定です。最近は、大人数の会が敬遠されがちですが、たまにはそのような会で語り合うことも良いのではないのでしょうか。皆さんにも予定が決まりしだい連絡しますのでぜひ参加してくださいね。

文責：保科 隆之（小児科通信制作係）